

せいろうまちの文化財と昔ばなし

聖籠町教育委員会

せいろうまちの  
文化財と昔ばなし



## 刊行にあたって

聖籠町には、歴史上または芸術上価値の高い有形文化財や無形文化財をはじめ、町の文化史上重要な史跡・名勝・天然記念物などが数多くあります。

町では、これらの文化財を町民のみなさまに知っていただくとともに、郷土に対する認識を深めていただき、さらなる文化の向上をはかりたいとの願いから、昭和五十年に文化財保護条例及び文化財調査審議会条例を制定いたしました。以来、審議会委員をはじめ、関係者の協力を得て文化財の調査や保護活動に努めてまいりました。

平成六年には『聖籠町の文化財』を発刊いたしました。このたびの『せいらうまちの文化財と昔ばなし』は写真をより多く載せ、さらに見やすくまた分かりやすく編集いたしました。また、語り継ぐ方が少なくなり、次第に忘れられていく聖籠町の昔ばなしをみなさまの記憶にとどめ、これからも親しんでいただけるよう、あわせて掲載してあります。

この『せいらうまちの文化財と昔ばなし』をご活用いただき、文化財を後世に伝承していただければ幸いです。町民のみなさまが歴史と自然に恵まれた町・聖籠町を一層誇りに思いさらに発展させることを願ってやみません。

平成二十三年十月

聖籠町教育委員会  
教育長 伊藤 順治

文化財

聖籠町の文化財マップ	4
絆己楼	6
大野家表門	8
観音堂	10
二王門	12
二王尊	13
十一面観世音菩薩	14
宝篋印塔	15
宝剣	15
観世音縁起	16
大元帥	17
大日如来	18
青不動	19
鶴の囀	20
天神の囀	20
五部秘経	21
安達家文書	22

埋蔵文化財

日枝神社境内地	24
旧市川神社境内地	26
根上がり松	28
蓮濁神楽	30
亀塚練馬	32
二宮家住宅	34
聖籠町の文化財一覧	36
聖籠町の遺跡	38
聖籠町の地形	42
遺跡一覧	44

昔ばなし

凡例	46
聖籠のいわれと	
百合若伝説	47
猿と蟻	51
神明さまの森	52
やまぼと	54
もっこふんどし	55
うなぎ釣りの おじいさん	56
肝試し	58
網代の海	59
小判の虫干し	60
亀塚浜の 位守山のこと	62
むかしばなし	64
キツネの話	66
火玉	71
猿とヒキガエル	72
猿のところへ 嫁に行った話	76

引用および  
参考文献

九十九曲がりの 伝説	80
むかしのはなし	84
大蛇の鬼退治	87
キツネと花子	91
関ノ戸八郎治	92
山王権現のお授け 井戸(由来)	95
参考文献	96

文化財



ぼくと一緒に  
見てまわろう！



# 聖籠町の文化財マップ



# 絆己楼

所蔵 個人

絆己楼とは、諏訪山にある大野家の私塾「学古堂」の塾舎の名前です。後に塾の名称として用いられるようになりました。嘉永六年（一八五三）に大野敬吉（耻堂）により建てられました。昭和五十三年に有形文化財（建造物）に指定されました。

**学古堂** 学古堂は耻堂の父である太郎蔵（臆斎）により創設されましたが、そもそも諏訪山の大家は大野助左衛門が享保十三年（一七二八）に移住してきたことに始まります。学問と関わりを持ち始めたのは四代目の仙蔵（敬与）からで、その跡を継いだ臆斎により「学古堂」が創設され、学問伝授に尽力し新発田藩から度々表彰されました。絆己楼では世の中の真実を追究し人間修行を目的として朱子学（儒学）の一派を学んでいました。

**大野耻堂** 耻堂は文化四年（一八〇七）に生まれました。一七歳で社講に任じられ、一九歳で名主（村落の代表者）を拝命しました。新発田藩の農政や学問の隆盛に貢献し、藩主により度々その功績を表彰されています。明治十七年（一八八四）七八歳で没し聖籠山に葬られました。

**絆己楼** 現存する絆己楼は大正年間に玄関や廊下などを取り除いて一部改築したそうですが、その他はほぼ建設当時のままです。総二階建てで、二階は一〇畳二間続き、高さは二m余りとやや低い部屋が塾生の居室でした。一階は二〇畳ほどの広さで、大野家では剣道場であったと伝えられています。渡り廊下で大野家の本宅とつながり、こちらに耻堂の書斎や教場があったそうです。

**英傑の輩出** 江戸時代末期から明治時代初期にかけて県内はもとより全国各地から一二歳から二五歳位の多くの塾生が集まり、多い時では百名以上も在籍していたようです。

この絆己楼からは『北越詩話』の著者である阪口仁一郎や、長野県令（知事）に就任した耻堂の子の儉次郎（誠）など優れた人材が数多く輩出され、後に教育・医学・政治・商業など様々な分野で活躍しました。

絆己楼は学校制度の整備とあいまって明治十七年耻堂の他界とともに閉塾されました。絆己楼としては三一年間、学古堂としてはおよそ百年間にわたり人材育成に貢献しました。



大野敬吉(耻堂)



絆己楼 外観



絆己楼 二階



# おののけおもてもん 大野家表門

個人

諏訪山にある威風堂々とした大野家の表門は、かつては水原代官所（阿賀野市外城町）の門でした。昭和五十三年に有形文化財（建造物）に指定されました。

**水原代官所** 徳川幕府の直轄領として中世水原氏の居城であった水原城跡に延享三年（一七四六）に代官所は設置されました。主な機能は新田開発や年貢徴収、隣接する新発田藩や村上藩の監視などでした。代官は初代の内藤十右衛門から二二代まで続きましたが、慶応四年（一八六八）戊辰戦争に伴い会津藩預かりとなります。その後、明治新政府軍の侵攻により廃され、一二年の幕を閉じました。

**大門** 水原代官所が明治初年に廃止された後、門は胎内市村松浜の平野家の所有となりました。さ

らに明治中頃に大野家へ渡り、表門として移築されました。

正面に大扉があり、左右に小扉、両袖には門番の控え所があります。大扉の上部には「文久三年（一八六三）」「水原御代官 里見源左衛門（第二二代の代官で一八五八〜一八六六年まで在職）」と墨で書かれ、この年に代官所の門が再建されました。また「棟梁（大工の親方）中村治右衛門 大工樟平・利蔵」とも書かれています。

水原の代官所にあった時には、この門をくぐって様々な人々や物が往来したのでしょう。今はこの聖籠の地で大野家の門として静かにたたずんでいます。



大野家表門 表側



大野家表門 裏側



現在の水原代官所

# 観音堂

## 宝積院

宝積院ほうしゃくいんにある二王門をくぐり、左右に木々の生い茂るまっすぐな階段を登っていくと、小高い丘の上に観音堂は冷厳な雰囲気を漂わせています。昭和五十三年に有形文化財（建造物）に指定されました。

**由来** 宝積院のいわれによると、百合若大臣ゆりわかに忠義をつくし亡くなった愛鷹あいようの緑丸みどりまるを弔うために堂と二王門が建てられたそうです。しかし壊れたので、新発田藩初代藩主の溝口秀勝により建立され、慶長十三年（一六〇八）六月に開帳されました。その後も三代目の溝口宣直のぶなおにより寛文七年（一六六七）五月に再興されるなど、歴代新発田藩主の信仰も厚かったようです。

現在の観音堂は宝暦六年（一七五六）十月に新しく建てられ、安政六年（一八五九）九月に改修されています。

観音堂内部には由来にあるように鷹（緑丸）の絵馬が複数奉納され飾られています。また、堂入口の上（向拝こうはい）にも緑丸が彫刻されています。

**聖籠の森** 観音堂を中心として真野や桃山、諏訪山、大夫、二本松あたりはかつて聖籠山と呼ばれる森林地帯でした。『北国太平記』という、江戸時代の宝永四年（一七〇七）に成立した軍記物によると、天正十四年（一五八六）十月新発田城攻めを終えた上杉景勝が春日山城に戻る際に、「瀬伊路森せいろのもりを右に見て、佐々木川を渡り押通す」と書かれています。また、江戸時代初期の藩の様子を伝える『案紙帳あんじちよう』によると、寛永十年（一六三三）に幕府の巡見使が「聖籠御山並観音堂迄御覧」になったと記されています。また、「正保越後国絵図」（左写真）や「元禄越後国絵図」においても周囲を森に囲まれた観音堂が記されています。

観音堂を中心としたこの地は、少なくとも江戸時代初期の頃には靈験れいげんあらたかな地であると近隣に広く知られていたようです。



向拝



観音堂奉納絵馬



「正保越後国絵図」

におうもん  
二王門

宝積院

宝積院にある門です。いわれについては観音堂  
(↓P.10)を参照ください。

門の左右には同じく町指定文化財の二王尊(↓左  
ページ参照)が安置されています。昭和五十三年に  
有形文化財(建造物)に指定されました。

**新発田藩** 聖籠町は江戸時代には新発田藩領に属  
していました。新発田藩領は加治川の南側から阿  
賀野川を越え、現在の新潟市江南区・秋葉区、さ  
らには加茂市付近をも含む広大なものでした。

慶長三年(一五九八)に加賀国(石川県)大聖  
寺城主の溝口秀勝が新発田城主となり、新発田藩  
初代藩主となります。その後、後述する七代直温  
や一〇代直諒なわあき、そして最後が一二代直正なわあつで、明治  
四年(一八七一)の廃藩置県により約二七〇年間  
続いた新発田藩は終わりを告げました。



# 二王尊

におうそん

宝積院

天平九年（七三七）、高僧の泰澄大徳（↓P.14 参照）がこの地に来て、百合若と緑丸を弔うために彫刻したと伝えられています。昭和五十三年に有形文化財（彫刻）に指定されました。

**二王** 仁王とも書き、ふつう二神一对で門の左右に立ちその怒りの形相で寺院内に外敵が入り込むことを防ぐ守護神で、金剛力士ともいいます。二王門の向かって右側には開口した阿形像、左側には口を結んだ吽形像が安置されています。「阿吽の呼吸（一つのことを行うときに息がぴったりと合うこと）」で両足を広げ「仁王立ち」でいかなる外敵も通らせない風貌で立ちほだかっています。

二王は上半身裸形で筋骨隆々としていることから、健康を祈る神様とも言われ、さらには健脚の神様としても広く崇拜されています。このことから二王門にはワラジが奉納されています。

なお、二王尊の身体には白いさらしもめんが巻かれています。このさらしを身につけることにより、二王尊から功德をもらえると伝えられており、お守りにされているそうです。



阿形



吽形

# 十一面観世音菩薩

宝積院

宝積院の本尊で秘仏です。古くから聖籠の観音様として親しまれています。昭和五十三年に有形文化財（彫刻）に指定されました。なお、宝積院は越後三十三観音札所の二十九番目、蒲原三十三観音札所の二十七番目の観音札所巡礼地でもあります。

**十一面観世音菩薩** 頭部に十一の顔をのせた菩薩です。像の高さは約一〇〇cmの立像で、左手に水瓶の頸を握り右手はゆるく垂下し手の平を前にして開き五指を伸ばしています。顔はやや目を伏せ、温和で穏やかな表情を宿しています。

**由来** 同じく町指定文化財の観世音縁起によると、天平九年（七三七）、高僧の泰澄大徳が国上山（燕市）で雷神を験力で制圧してから聖籠の地に来て、百合若大臣と緑丸を弔うためにご本尊の

十一面観世音菩薩と二王尊を彫刻したと伝えられています。

**泰澄大徳** 奈良時代初期の山岳修験者です。加賀（石川県）白山（山岳霊場として有名で、平安時代には修験者や行者が籠って修行した場所）の開創者といわれています。越前国麻生津（福井市南部）に生まれ、一四歳の時に越智山（福井県丹生郡）に登り、十一面観音に念じ修行したそうです。養老六年（七二二）元正天皇の病を祈祷し、神融禅師の号を賜りました。

秘仏なので普段は見る事ができなく、一〇年に一度のご開帳の時だけ拝むことができます。近年では平成二十一年八月の五日間ご開帳でしたから、次に拝めるのはその一〇年後の八月になります。

## 宝篋印塔

宝積院

新発田藩七代藩主溝口直温なおあつが写経した五部秘経ごぶひききょう（↓P.21参照）を納めるために造られました。高さ約一八〇cmで木造の金箔押きんぱくです。精巧に細工され、今でも金色に輝いています。昭和五十三年に有形文化財（工芸品）に指定されました。

**宝篋印塔** 仏塔の一種です。本来は宝篋印陀羅尼だらにという経典を収めました。後には供養塔や墓碑として建てられました。一般的には石造のものが多くようです。基礎の上に方形の塔身を置き、屋根と相輪そうりん（飾り）をのせています。



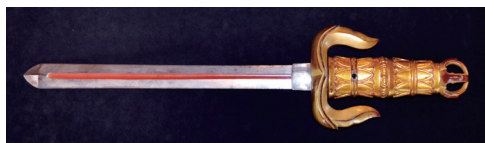
## 宝剣

宝積院

長さ約三五cmの金色に輝く宝剣です。新発田藩七代藩主溝口直温の作ったものです。昭和五十三年に有形文化財（工芸品）に指定されました。

直温は書画に堪能たんのうであることは広く知られていますが、手作りの宝剣は珍しいものです。刀身の茎なか（刀の付け根）に「溝口出雲守源直温」と銘が刻まれています。

中央に菊紋、上下に桐花紋とうかもんの入った金蒔絵まきえの箱に納められ、更に黒塗で赤紐付の外箱が付いています。





# 観世音縁起

宝積院

一卷の巻物です。観音寺(宝積院)のいわれ(縁起)が書かれたもので、これは「略縁起」と書かれていますので縁起を要約したもののようです。昭和五十三年に有形文化財(書跡)に指定されました。百合若大臣と緑丸の話から十一面観世音菩薩と二王尊の由来、そして「聖籠」の名の由来が書かれています。

**縁起の内容** 縁起には次のようなことが書かれています。

「聖籠山に奉納してある十一面観音菩薩と二王尊は、たいちやうだいとく 泰澄大徳(↓P.14参照)の作られた靈験あらたかな仏様です。

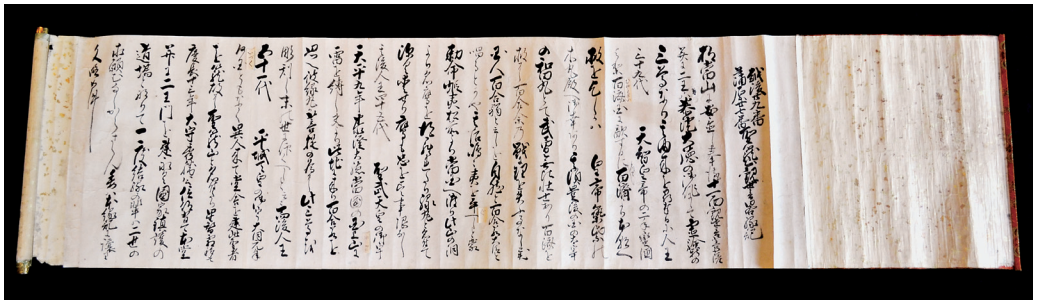
その由来は、天智天皇の御時二年(六六三)、百済くだらの国に敵が攻め込んだことから、百済の国は日本に助けを求めました。天皇は百済を救うため筑紫つくし(九州)の木の丸殿(福岡県朝倉市にあった

飯室)に行きます。その頃、豊後の国(大分県付近)の太宰ださいの和田丸という武勇無比の者がいました。和田丸は百済を救いに行き、百済余の戦に負けることがなく、異国人が百令弱べかしやくと叫ぶことかから百令若大臣と呼ばれるようになりました。

その後、百令若大臣は鳥々を平定するよう言われ、勅命により蝦夷えぞ(北海道)の松前から越後国(新潟県)に渡り、山の洞窟より名鷹を得ました。この鷹に緑丸と名付けて大変可愛がったことから、鷹も百令若大臣に忠義をつくしました。

時は過ぎ、聖武天皇の御時の天平九年(七三七)、高僧の泰澄大徳が越後国の国上山(燕市)で雷神を験力で制圧してからこの地(聖籠)にやって来ました。百令若大臣を思い、緑丸を弔うために十一面観音菩薩と二王尊を彫刻し、後の世まで拝むようにと言われました。

こうして後、平城天皇の御時の大同元年(八〇六)にどこからともなく来た異人(靈僧)が堂舎を建て、この聖者が籠こもったことから聖籠山と名付けました。



時代は移り、慶長十三年（一六〇八）、新発田藩初

代藩主の溝口秀勝は信仰

深く、本堂（観音堂）と二

王門を建て、未永く国家鎮

護の道場としました。一度

参拝した者は現世と来世

の願いがかなうでしょう。

詳しいことは本縁起に

ゆずり、話の概略はこのよ

うなものです。」

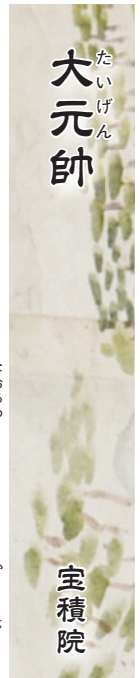
（昔ばなしの「聖籠のいわ

れと百合若伝説（↓P.47）

も参照ください。）」

たいげん  
**大元帥**

宝積院



新発田藩七代藩主溝口直温なおあつが描いた掛軸かじくです。画面右には「従五位下溝口出雲守源直温画之」とあり、花押かおう（署名の代わりの記号）があります。平成五年に有形文化財（絵画）に指定されました。

**大元帥明王** 国土を護り敵を降伏させ、国の力を

増すことに功德くどくを發揮するといわれています。恐

ろしい顔が三つで髪は天を衝くように逆立ってい

ます。腕は八本でそれぞれの手に武器を持ち、足

の下には邪鬼を踏みつけています。



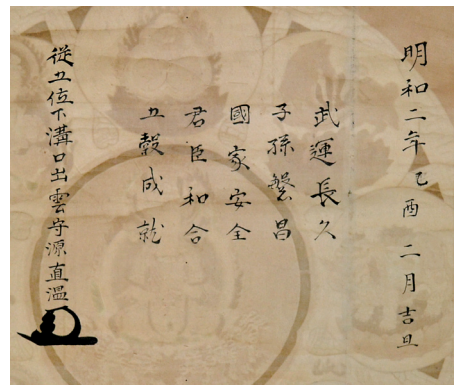
だい にち に よらい  
**大日如来**

宝積院

新発田藩七代藩主溝口直温なおあつが宝暦十一年（一七六一）に退隠し、その四年後の明和二年（一七六五）二月に描いたものです。平成五年に有形文化財（絵画）に指定されました。

**大日如来** 中央に描かれ、密教（真言宗と天台宗）では最も重要な仏様です。大日如来には智慧ちえを表す金剛界と慈悲じひを表す胎藏界がありますが、これは金剛界大日如来で左手の人差し指を右手の拳で包み込む、智拳印ちけんいんという印（手の形）を結んでいます。

裏面には「明和二年乙酉二月吉日」「武運長久 子孫繁昌 国家安全 君臣和合 五穀成就」「従五位下溝口出雲守源直温（花押）」と、子孫が繁栄し平穏であるよう、君と臣下が仲良く、豊作であるようにと書かれています。退隠後も藩の繁栄と安定を大日如来に祈願していたことがうかがえます。



# 青不動

あおふどう  
宝積院

新発田藩七代藩主溝口直温によって描かれた不動明王です。全身が青色で彩色されていますので青不動と呼ばれています。平成五年に有形文化財（絵画）に指定されました。

**不動明王** 仏敵を降伏させるために怒りの形相で、すべての障害を打ち砕き仏道に従わないものを導き救済する明王です。

磐石（大きな岩）の上に立ち、右手には宝剣（慧刀）を持ち、左手には罽索（元来は武器の一種であったが言うことを聞かない者を調伏する意味を持つ）、一切の煩惱を焼きつくす炎（猛炎）が描かれています。

直温が宝暦八年（一七五八）三月二十四日の夜、夢で木像の不動尊を見て不動明王の姿を描いたと画面左下に書かれています。裏側にも「浄名院殿（直

温の法号）夢中感見 不動尊」と書かれています。

画面上部には七言絶句（漢詩）で「瞻仰夢中無動尊 鋒鋌罽索照乾坤 追魔軍去国家穩 長為雲仍鎮武門」、画面右下には「西薩黒太淳謹んで拜賛す」と記されています。

直温が夢を見た宝暦八年は退隠する三年前のことになります。この頃の新発田藩は財政が厳しく、家臣の減俸が常の状況でした。また、水害等の災害にも見舞われた頃であったことから、直温がこの絵に何を願って描き、宝積院に奉納したかその心中が察せられます。



つる  
鶴の図  
ず

宝積院

新発田藩七代藩主溝口直温なおあつの描いたものです。  
平成五年に有形文化財(絵画)に指定されました。  
二幅あり、一つは鶴二羽と梅、一つは鶴一羽と  
太陽と老松が描かれています。



てんじん  
天神の図  
ず

宝積院

新発田藩十代藩主溝口直諒なおあきの描いたものです。  
成五年に有形文化財(絵画)に指定されました。  
裏面に「天廟御筆菅公」と書かれてますが、「菅  
公」とは菅原道真みちざねです。

**菅原道真** 平安時代の学者、漢詩人、政治家で、  
天神様と呼ばれ、学問の神、文筆の神、和歌の神、  
書道の神等々として崇められました。現代におい  
ては特に合格祈願の神として有名です。



# 五部秘經

宝積院

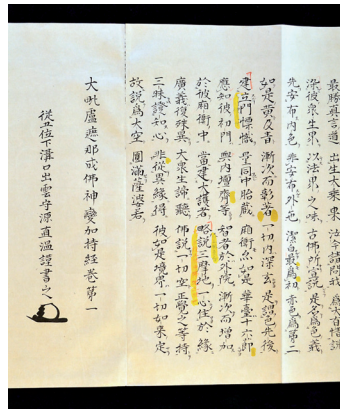
新発田藩七代藩主溝口直温が写し書いたものです。宝積院は真言宗ですが、真言宗では五つの大切な經典を五部秘經と呼び根本經典としています。これを宝篋印塔(↓P.15参照)に納め宝積院に寄進したものです。昭和五十三年に有形文化財(書跡)に指定されました。

**五部秘教** 『大日經』が全七冊、『金剛頂經』が全三冊あります。この二つの經典は真言宗においては特に大事にされている經典です。

その他に『蘇悉地羯羅經』が全三冊、『要略念誦經』が全一冊、『瑜祇經』が一冊あります。加えて、真言宗の本尊である大日如来(↓P.18参照)の御宝号(名前)が書かれているものが一冊あり、これを含めて計一六冊が町指定となっています。



書かれたもの  
の御宝号



『大日經』



# 安達家文書

あだちけもんじよ  
聖籠町  
教育委員会

新発田藩新発田組の桃山新田名主、安達家に伝わる古文書です。昭和三十六年、『聖籠村誌』の編さんにあたった大木直枝氏により命名されました。この安達家文書は平成二十二年に有形文化財（古文書）に指定されました。

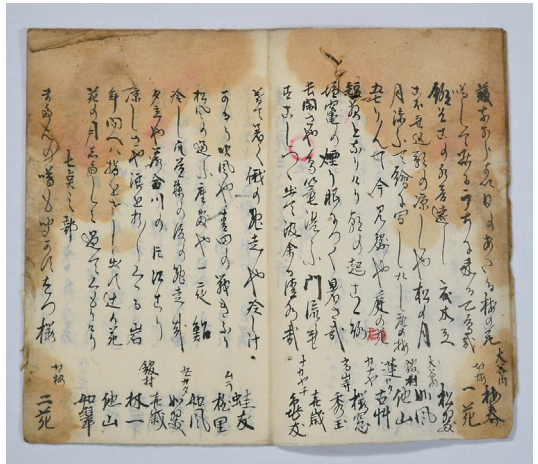
**安達家文書** 江戸時代の貞享年間（一六八四～一六八八年）から明治二十年代位までの史料です。数量は約六千点と膨大で、和紙に墨書きされ手紙状や冊子状になっているものが大半です。内容は、「検地・地籍・絵図・行政・年貢・人口・宗教・法令・訴訟・移住・金融・土木・日記」など万般にわたっています。これは名主文書の典型的なものです。安達家文書は中でも「土地・租税・村・戸口」に関するものが多いほか、「書状」や「学芸（文芸）」に関する資料が多いのが特徴です。

**聖籠町史** 町では平成七年より聖籠町史の編さんを始め、聖籠の近世を知るうえで重要な資料である文書を安達家より借り受け、分類整理を四年半かけて行いました。これらを基にして、町や人々の歴史がいきいきと再現された通史編一巻・資料編四巻の計五巻の町史を刊行することができました。町史刊行後、安達家にお返しする予定でしたが、「聖籠町の文化を後世に伝えるべく、資料を保管・活用してもらいたい」とのことです。町教育委員会に寄贈していただきました。

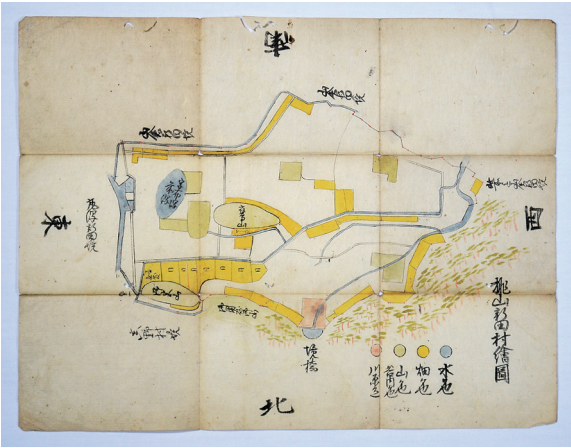
安達家文書は江戸時代から明治時代にかけて聖籠町域の行政支配の様子、村内の慣習、個人の家の様子までわかる一級資料です。聖籠町域のみならず、新発田藩域内での研究の大切な基本資料でもあります。



御廻状留書帳（御用留書帳）  
安永二～四年（1773～1775）  
幕府より出された御廻書を村で書き留めた帳面。



桃山新田の神社へ  
奉納された俳諧  
年不詳



桃山新田村絵図  
年不詳



# 日枝神社境内地

日枝神社

日枝神社は古くは山王様、山王権現とも呼ばれた由緒ある御社です。神社社殿一棟、神社境内地および立木、鳥居、狛犬、石灯籠が昭和五十三年に記念物（史跡）に指定されました。

**日枝神社** 主祭神は大山咋命おおやまくののみことという山の神で、山王とも呼ばれます。

神社の創立は、由来によると遠く何千年も前になるそうです。昔は近隣の産土神うぶすながみ（土地を守る神）として崇敬され、大変賑わったそうです。

天喜四年（一〇五六）、將軍の源義家が奥羽討伐の途中でこの神社に戦勝祈願し、後に奥羽を平定（前九年・後三年の役）できたことから、神の加護に感謝して鳥居とりいを奉納したそうです。上杉謙信も武田信玄と戦をする際、義家の故事にならない同じく鳥居を献じたと伝えられています。

また、江戸時代新発田城主の溝口秀勝は信仰も厚

く、絵馬を奉納したと伝えられています。御神体は、次第浜の関ノ戸八郎治という力士（↓P.92参照）が、寛政四年（一七九二）に上野寛永寺の一品法親王（輪王寺宮）から下賜され、奉納したものです。同じく赤地錦の幕と桐菊の紋のある御旗も奉納されています。

しかし、神社は永正年間（室町時代一五〇四～一五二二）に越後国の内乱と天正十七年（一五八九）本間高貞の兵火により焼け、古来より伝わる書物や宝物は消失し、いにしえの様子を伝えるものは残っていません。さらに大正十二年にも火災により焼失しています。

**アベマキ** 日枝神社周辺の林には、アベマキというクヌギに似たドングリのなる木が多くあります。アベマキ林は各地にあります。山王の森のものは県内で最も規模が大きくまとまっていることから、学術的に非常に貴重な林です。様々な植物や鳥類などが生息し自然状態が保たれていることから、新潟県の緑地環境保全地域に指定されています。



日枝神社 本殿



向拝

## 旧市川神社境内地

聖籠町

大きな会社や工場の立ち並ぶ位守町の一角に、池に囲まれた位守山と呼ばれる小さな丘があります。かつて、この位守山の上には市川神社がありました。昭和五十四・五十五年の新潟東港開発計画に伴い、神社は亀塚集落と共に移転しました。この跡地は昭和五十三年に記念物（史跡）に指定されました。

**位守山** 東西五六m、南北四三m、高さは一一mあるそうです。言い伝えによると、古い時代に造られ神や人をまつるために土を盛った塚であるとの説もあります。定かではありません。いずれにしても、古くから亀塚集落を守る神社がまつられてきた場所として信仰されています（↓P.62参照）。

**市川神社** 今から千年以上前の平安時代にまとめられた『延喜式』に、当時「官社」とされていた

全国の神社一覧が書かれ、これらの神社を「延喜式内社（式内社）」といいます。この中に「市川神社」の名前がありますが、これが位守山にあった「市川神社」を指すかは定かではありません。

市川神社の祭神は素盞鳴尊（すさのおのみこと最も尊い神である三貴神の一神）、誉田別命（ほむたわけのみこと応神天皇の御名）、水波女命（みずはのめみこと水の神）です。神社は亀代地区多目的屋内運動場の前に移築されています。

現在、位守山は公園として保存整備されています。亀塚集落の長い歴史を物語り、また工業団地のオアシスとして人々に親しまれています。



位守山



位守山史跡公園



移築された市川神社

# 根上がり松

聖籠町

国道一一三号線から次第浜の亀代こども園に向かうと、右手に大きな風格のある松が見えてきます。この松は「根上がり松」と呼ばれる大きな黒松で、昭和五十七年に記念物（天然記念物）に指定されています。

**松** 樹齡は八百年とも言われています。その昔、新発田藩主がこの大松の見事さを褒め、庭師を遣わし手入れをさせたと伝えられています。

樹高約一三m、胸高周囲長三m以上もあります。根は名前のとおり地上にふんばるように強く張り出しています。

町ではこの貴重な松の健康を維持し、後世へと伝えるために、定期的に薬剤の注入や下垂している枝に支柱をし補修などを行っています。

平成二十一年冬の強風で枝の支えが外れ隣接する道路を覆い、また付け根の腐朽部に負荷がかか

り、裂けてしまいました。その後、幹が枯れ始めたことから、平成二十三年に枯れた幹の伐採を行い、周辺を整備しました。

**各地の根上がり松** 根上がり松と呼ばれる松は、実は聖籠町だけでなく各地にあります。

静岡県浜松市には天然記念物に指定されている「鳴江の根上がり松」という二本の黒松があります。樹齡二百年と推定され、根の部分は二m以上も地表から浮き上がっているそうです。

和歌山県吹上市には県の天然記念物に指定されている「岡山の根上がり松群」があります。指定を受けた当時は複数あったそうですが、工事や台風、病害虫などにより現在残っているのは二本だそうです。こちらも根が二m近くも浮き上がっている黒松で、樹齡は三百数十年と推定されています。



根上がり松（内陸側より）



昭和 35 年の根上がり松（海側より）  
左側の幹は平成 23 年に伐採。

# 蓮濁神楽

蓮濁神楽  
保存会

神楽とは神社の祭礼などの時に笛や太鼓、囃子で舞うものです。「かぐら」という言葉は、神の宿るところを意味する「神座」がかわったものだからです。この神座に神々を招き、巫女と呼ばれる女性が神の意思を伝え、あるいは神に人々の願いを伝えたりお祓いをしますが、この歌や踊りが神楽と呼ばれるようになったと考えられています。

蓮濁に伝わる神楽は昭和五十三年に無形民俗文化財（民俗芸能）に指定されました。

## 蓮濁神楽の歴史

蓮濁神楽については古い記録がなく、どうやってこの地に伝わったのかよくわかっていません。言い伝えによると、今から約三百年前の享保年間に、今の新発田市（旧紫雲寺町付近）に紫雲寺濁（塩津濁）という広い湖がありました。その湖の干拓工事（水を取り除き耕地にする事）を行うために中蒲原郡方面（現在の

五泉市付近）から来た人によって伝えられたものと言われています。その当時は工事の安全を願う、さらには病気にならないように、家族が健康であるように、また豊作であるように神に祈り願う村祭りには神社へ奉納しました。昭和十年頃までは新発田市や新潟市北区の松ヶ崎周辺にも蓮濁神楽は出向き、近隣に広く知られていました。その後、後継者難や社会情勢の変化により途絶えそうになりましたが、昭和五十年、聖籠村（当時）の青年有志たちが蓮濁集落の老人たちの指導を受けてまた蓮濁神楽が復活しました。そして今は蓮濁集落の有志による蓮濁神楽保存会へ引き継がれ、集落の祭りや賽の神、こども園や町民会館の行事などで披露されています。

近年まで神楽舞いは日本各地にありましたが、後継者がいなくなりその姿を消していく中で、蓮濁神楽は後世へ伝えてゆくべき大切な民俗芸能です。



社壇降ろし(神降ろし)

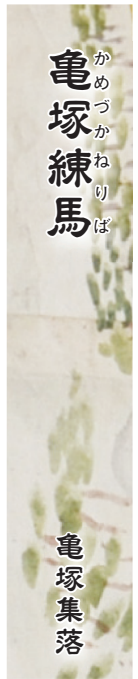


天狗舞



天狗舞





亀塚練馬は毎年一月下旬に行われる亀塚集落恒例の一大行事です。練馬とは稲藁わらで作る大しめ縄なわのことです。平成七年、無形民俗文化財（民俗芸能）に指定されています。

**練馬** 早朝より亀塚公会堂に集まり、事前に準備しておいた稲藁で大きなしめ縄を作ります。練馬の長さは三・二m、重さは三〇〇kgもあるそうです。これを集落内の一九才の年男が肩にかつぎ、午後四時頃から集落内を練り歩きます。

先導には翌年の担かつぎ役となる男子が顔に墨をぬり、太鼓をたたいて音頭をとりながら、沿道の人たちにご利益や魔よけに細かく切った藁をふりかけます。練馬は道中「一本なあれやー」のかけ声と共に天に向けて放り上げられます。練馬は奉納するまでは決して地に落としてはならず、もし落としたら担かつぎ手には罰があるそうです。そして五

時頃には諏訪神社の鳥居に奉納されます。

**亀塚決** 現在の亀塚の前身である亀塚浜は、新潟東港開発計画に伴い昭和五十四・五十五年に現在の亀塚集落の場所に移転されました。

江戸時代初期の頃、亀塚浜には市川神社（↓P.26参照）と諏訪神社、そして今はありませんが神明社という三社があったそうです。中でも神明社は靈験れいげんあらたかで、沖合を通る船をも止めたとも伝えられ集落の崇敬の的でした。ところが今から約三百年前に火災があり神明社は全焼したそうです。このため健康で病気にならないよう豊作であるように祈る行事として練馬が始められたと伝えられ、それ以後絶えることなく大しめ縄奉納が行われています。

亀塚練馬は集落で脈々と受け継がれてきたものであり、多くの人たちがその準備にかかわることから、亀塚練馬は地域の世代間の交流や親睦しんぼくを深め、結束力を高める大切な奉納行事となっています。



諏訪神社に奉納された練馬



にのみやけじゅうたく  
**二宮家住宅**

個人

新新バイパスの蓮野インターチェンジを下り、新発田方面に向かうと道沿いに二宮家の大きな門と塀が見えてきます。家の裏側は弁天潟に面している、広大な屋敷地です。

**二宮家** 二宮家は金子新田（現在の新発田市）より延享元年（一七四四）に蓮潟興野（現在の蓮野）に移り住みます。蓮潟興野の名主を務め、後に庄屋格（大庄屋に相当）に任ぜられた家柄で、幕末から明治にかけて全国でも有数の大地主となりました。所有地は広大で、その範囲は阿賀野川の南側にも及びました。

**登録有形文化財** 二宮家住宅は国の登録有形文化財に指定されています。これは近年の開発や生活様式の変化等により、消滅の危機にある様々な近代等の文化財建造物を後世に幅広く継承していく

ための制度です。二宮家住宅は平成十八年に登録されました。

**二宮家住宅** 主屋や作業場、大門、味噌蔵、米蔵、土蔵など一五件が登録されています。これらは明治初期から昭和初期にかけて建てられました。

敷地中央にある大きな主屋を囲んでこれらの建物が配置され、弁天潟の水面上に張り出して建てられた「涼亭」すずみでいなどもあり、豪農の屋敷構えを現在によく伝えていきます。

なお、通常二宮家住宅の一般公開は行っていませんが、毎年五月から六月にかけて、二宮家で育てたバラ園と日本庭園を公開しています。色とりどりのバラが庭園で咲き、その時期になると大勢の鑑賞者で賑わっています。



土蔵



涼亭



バラ園

## 聖籠町の文化財一覧

名称	指定区分	種別	員数	指定年月日	所在地	所有者・管理者	一般公開・奉納日
二宮家住宅	登録有形文化財	建造物	一五棟	平成十八年十二月二十九日	聖籠町連野	個人	バラ園公開時等
亀塚練馬	町指定無形民俗文化財	民俗芸能		平成七年四月一日	聖籠町亀塚	亀塚集落	毎年一月下旬
蓮濁神楽	町指定無形民俗文化財	民俗芸能		昭和五十三年十一月三日	聖籠町蓮濁	蓮濁神楽保存会	○
根上がり松	町指定記念物	天然記念物		昭和五十七年十一月三日	聖籠町次第浜	聖籠町	○
旧市川神社境内地	町指定記念物	史跡		昭和五十三年十一月三日	聖籠町位守町	聖籠町	○
日枝神社境内地	町指定記念物	史跡		昭和五十三年十一月三日	聖籠町次第浜	日枝神社	○
安達家文書	町指定有形文化財	古文書	一括	平成二十二年十一月二十四日	聖籠町諏訪山	聖籠町教育委員会	部分公開
五部秘経	町指定有形文化財	書跡	一六冊	昭和五十三年十一月三日	聖籠町諏訪山	宝積院	
天神の図	町指定有形文化財	絵画	一幅	平成五年十一月三日	聖籠町諏訪山	宝積院	
鶴の図	町指定有形文化財	絵画	二幅	平成五年十一月三日	聖籠町諏訪山	宝積院	
青不動	町指定有形文化財	絵画	一幅	平成五年十一月三日	聖籠町諏訪山	宝積院	
大日如来	町指定有形文化財	絵画	一幅	平成五年十一月三日	聖籠町諏訪山	宝積院	
大元帥	町指定有形文化財	絵画	一幅	平成五年十一月三日	聖籠町諏訪山	宝積院	
観世音縁起	町指定有形文化財	書跡	一卷	昭和五十三年十一月三日	聖籠町諏訪山	宝積院	
宝剣	町指定有形文化財	工芸品	一口	昭和五十三年十一月三日	聖籠町諏訪山	宝積院	
宝篋印塔	町指定有形文化財	工芸品	一基	昭和五十三年十一月三日	聖籠町諏訪山	宝積院	
十一面観世音菩薩	町指定有形文化財	彫刻	一躯	昭和五十三年十一月三日	聖籠町諏訪山	宝積院	○年ごとのご開帳時
二王尊	町指定有形文化財	彫刻	二躯	昭和五十三年十一月三日	聖籠町諏訪山	宝積院	○
二王門	町指定有形文化財	建造物	一棟	昭和五十三年十一月三日	聖籠町諏訪山	宝積院	○
観音堂	町指定有形文化財	建造物	一棟	昭和五十三年十一月三日	聖籠町諏訪山	宝積院	毎月十九・二十日は内部公開
大野家表門	町指定有形文化財	建造物	一棟	昭和五十三年十一月三日	聖籠町諏訪山	個人	×
絆己楼	町指定有形文化財	建造物	一棟	昭和五十三年十一月三日	聖籠町諏訪山	個人	×